

協働のまちづくり推進計画策定に向けた今後の進め方等に関するアンケート(回答結果)

質問 1. 今後の進め方について

第1回会議で久委員長が提案されたように、協働のまちづくり推進計画素案の作成の前に、摂津市の協働の状況について3回ほどフリーディスカッション形式で議論を行い、その内容を反映して計画素案の作成に移行するという形式でよろしいでしょうか。

回答

進め方	回答数
委員長提案の形式	7
事務局提案の形式	2
その他（以下に記載）	5
合計	14

その他の内容

- ・他の委員の意向に従います。
- ・どちらの形式がよいとは言えませんが、異なる所属の方々が委員になられていますので、まちづくりにおいて各々の立場からのお考えや課題とする点などがより引き出され、建設的な議論に発展していく可能性が高い方の形式を望みます。
- ・摂津市協働のまちづくり推進条例第13条第1項に基づく調査審議の範疇で実施されたい。また、推進委員会規則第5条(委任)に規定されているとおり、委員長が会議に諮って定めるものと考えます。
- ・ボランティア団体、利益団体等の委員会であり、目的・方向性は異なることから、まずは、行政側の方向性・目的を示すことが入口ではないかと思われる。
- ・形式について久委員長の提案には概ね賛同しますが、ディスカッションが目的になってしまふと、それぞれが立場によって思うところの発言が飛び交いそうで、その後が散漫になってしまふかなと思い、ディスカッションの目的を明確にしたほうがいいと思います。ディスカッションの目的は、協働のまちづくり推進計画策定（協働はあくまでも手段、目指すのは市民自治によるまちづくりですよね？）に向けて、「問題を発見するため？」「解決を目指すため？」「アイディアを発見するため？」などの、それによって、2. のテーマが変わってきますし、必要なデータの選択も変わるかと…なので、2. についてはディスカッションの目的が決まらないと答えにくいです。よって、以下答えていません。

質問2.フリーディスカッションのテーマについて

1.の結果、フリーディスカッションで進めていくこととなった場合、どのようなテーマで議論や話題提供を希望されますか。

回答

1-1	市に在住する外国人について
1-2	若者が集まり楽しめる場所づくりについて
2-1	各地域、各団体のそれぞれの課題について
2-2	協働のまちづくりに対する考え方について(認識の共有)
2-3	協働で話をすすめていくうえで、みんなの願うゴールはあるのか?どうなったらいいと考えているのか?
2-4	摂津市の未来を考えていくうえでの課題や、まちづくりビジョンと具体的な計画や取り組みの共通認識
3-1	第1回の会議資料4-5(R6下半期 市政モニターアンケート)の結果から特に気になった所について
3-2	中間支援活動に対する認知度について
3-3	協働のまちづくり推進委員会が設置されるまでの市の取り組みについて
4-1	平成24年に策定された「協働と市民公益活動支援の指針」を受け、摂津市として具体的にどのような取り組み・活動をしてきたのか、の確認作業は不可欠。
4-2	上記現状を受け、摂津市の実情に至る原因分析と近隣他市(久先生ご指導)との比較(課題を共有するためのしっかりと議論)
4-3	摂津市での「協働のまちづくり協議会」立ち上げ試案
5-1	“まち”を構成する様々な組織・団体の役割や関係性(所管を含む)等について 例)自治会→連合自治会
5-2	委員の方々がそれぞれのお立場で直面している課題や、まちづくりを検討する上で、もっとこうなればいいという考え方について
5-3	他市のまちづくり推進計画や、計画策定に至るまでのプロセスの好事例
6	市政モニターアンケート結果等からの各委員の気付きや課題、その背景(理由)について ・アンケート結果と、市での取り組みや皆さんの活動の中で感じておられる部分に差があるか。 ・取り組んでいるが、市民には情報として伝わっていないことや、逆に意外と市民の方が良い評価をしていること、その理由は何かということから、摂津市の協働の現在地を探っていくことから始めるのも良いのではないか。

7-1	摂津市で公益活動をする団体が府下の中でも少ない原因について（個人的に新たなNPO法人とつながりがないので話す機会をもちたい）
7-2	摂津市における中間支援組織の在り方やどんな場所にしたいか？本当に必要なのか？ ・摂津市の考え方や委員さんの立場から聞きたい。 ・長らく議論されているが20年経っても実現できていない理由は？ ・市と市民の協働だが、担当課の職員さんがそれぞれの団体に足を運んで見学や知るという行動を起こされているか？
7-3	各地域で開催される祭りについて、どのような団体が運営や取り組みをされているか (例)みしまつり、桜町フェスティバル、たそがれコンサート、ました楽いち、明和池公園での祭りなど
8-1	大学連携について・まちづくりの活動の市民参画の中でも比較的他地域出身者が多いとみられる大学生に協力してもらえるような企画を考えられないかと思っています。それにより、より多角的に進められると考えるからです。委員に人間科学大の先生が入っていらっしゃることは素晴らしいことであり、更に大阪学院大の連携もあればいいと思われる。個人的には2005年から2008年まで寝屋川市の任期付職員（IT関連のCIO補佐官・課長級）として勤務した中で摂南大学と連携し、寝屋川市民ポータルサイトの開発・運営や関西大学との連携で教育委員会のITを用いた国際交流事業）に関わった経験からこのように考えました。
8-2	外国籍の住民も巻き込んだまちづくり・先月JOCA大阪で自治振興課や近隣地区のNPO団体などと運営している「会うてしゃべってぶっちゃけトーク」に摂津市在住者の外国籍の方々（カンボジア・インドネシア）や摂津小学校の片上綾子先生（青年海外協力隊経験者）にスピーカーとなっていただいてその思いを語ってもらう中で地域社会の一つのピースとして外国から来られた住民の思いも汲んだまちづくりが必要ではないかと考えた。
9	本審議会は、「協働のまちづくり推進条例」に基づくものと理解しています。恣意的に意見や感想を述べる場面ではなく、当該条例の逐条毎に意見等を述べるものと理解しています。本筋を逸脱しないよう進めていただきたい。
10-1	より広く、市に関係する人々が関わって協働する「場」をどのようにデザインしていくか。
10-2	摂津市を「共に創っていく」というようなコンテンツ発見

その他の回答

・テーマではないのですが、商工会からは条例制定時や委員会発足する際、「その地区その地区的企業がどのような役割をするのか判断してもらうしかなく、団体としての意見はありません」と答えたと聞いております。私自身、何か意見を求められたら一企業として答える範囲でお答えしようと考えております。

ただ、今回、第一回委員会及び資料を読んで、摂津市が地域問題解決を依頼し担っていた自治会が対応出来なくなったので今、別の組織を作ろうと模索していると理解しております。私自身、自治会に入ってはおりますが、それなりの年会費を払い、定期的な地域（道路等公的範囲）の清掃、ゴミ集積場の清掃管理、地域の老人会・小学校・団体への協力作業等かなりの負担があります。実際に自治会以上の組織を作り出すことは今の時代難しいと考えますが、自治会への優遇及び自治会員の負担軽減にを行いの加入率を上げる努力をする段階ではもうないということでしょうか。摂津市の政策で会員に対して金銭的にも実作業的にもう少しゆるい自治会を広げていくことは出来ないかと考えます。

・条例を制定された経緯・プロセスを知るために関連議事録の公表・閲覧を希望する。